

# 山協ニュース

岩手県山岳協会  
第183号  
平成26年1月8日発行  
[long-distance.jp/sangaku/](http://long-distance.jp/sangaku/)

## 平成26年新春を迎えて

岩手県山岳協会  
会長 高橋 時夫

新年あけまして おめでとうございます。

新春を雪山の朝日の中で迎えられた皆さん、また今年1年の山行に夢を膨らませている多くの岳友、加盟団体の皆様、本年も安全で楽しい登山が実践できますよう心からご祈念申し上げます。

年が明け、希望郷いわて国体もあと2年後となりました。私たちの念願のスポーツクライミングリード壁も岩手県営施設として今春には完成、選手強化やスポーツクライミングの普及に大きな力となることと思います。

盛岡市実行委員会との連携を密にして国体成功のため、協会上げて準備に取り組んでいきましょう。1月1日は、岩手山の玄関口、滝沢村

は「滝沢市」として市制施行、おめでとうございます。

若者も少しづつ山に戻ってきてくれています。多くの中高年登山者とともに健康な笑顔と喜びの声が県内各地の山頂で響くことだと思います。加盟団体、関係市町村等多くの山を愛する仲間たちとともに、今年も安全登山の啓蒙、自然愛護、そして国体選手強化、スポーツクライミングの普及に微力ながら取り組んでいきたいと思います。引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

## 初冬期講習会開催

本格的な冬山シーズンを迎え、初冬期講習会兼指導員研修会が八幡平市の三ツ石山を会場に12月7日、8日の2日間開催されました。講習会には指導員5名、受講生7名が参加。7日は、午前9時30分松川温泉松川荘で開会式。佐藤指導部長から気象条件の変化が激しい冬山登山に備え、寒さへの慣れ、基礎技術の確認等充実した研修会にして



欲しいと挨拶。その後、装備点検等を行い、小雪の舞う中、三ツ石山荘を目指す。正午過ぎ山荘に到着。山小屋周辺の地形確認やインドア研修で冬山登山の心構えについて研修。夜は、交流会に花を咲かせる。

2日目の8日も小雪交じりの天気。午前6時30分行動開始、初冬とはいえ、山はすでに完全な冬山。思わぬラッセルを強いられ、読図訓練を行ながら三ツ石山頂を目指す。9時前には山頂に立つ。登頂後コース確認を行う等夏山とは一変する地形等に留意しながら、登山口の松川温泉へと下山。10時、参加者の確認、装備点検を行い、土井講師の講評を頂き解散。

本格的な冬山登山に向けて、寒さ対策、技術等基本に返った有意義な研修となりました。2月には、冬山講習会が開催されます。加盟団体の若手会員の参加をお待ちしています。

参加者 指導員 佐藤(誠)、土井(祐)、阿部(陽)、桑原  
研修参加 四戸(岳)(滝沢)、長畑、菊池(眞)、  
松岡(アルペン)、田沼、吉村、天沼(盛岡RC)  
C)、久保(高体連)  
(別紙、報告書があります。)

## 北上山岳会創立60周年を祝う

平成25年11月30日(土)、創立60周年を迎えた北上山岳会(星 晃会長)の創立記念祝賀会が北上市内のホテ

ルで開催されました。祝賀会には、北上市長、北上市体育協会会長、県内山岳会の代表や協会高橋会長をはじめ副会長、各部長等もお招きを頂き、会員等50名の出席のもと盛大に開催されました。



北上山岳会は、昭和28年黒沢尻山友会として創設され、翌年北上山岳会と改称、今日まで岩登り、冬山、沢登り、冬山、海外遠征登山はもちろん、競技登山への取り組みなど、一般登山とスポーツ登山の調和のとれた活動をしてきています。また、市民登山や遭難対策などの社会貢献にも立派な実績を残され、本県登山界を常にリードしてきています。

祝賀会では、星 晃会長が「60周年を契機に、安全登山に心がけ、調和のとれた山岳会活動に心がけ会員の融和と市民に愛される山岳会として、これからも活動していきたい。」と述べられました。当日は記念誌「ぶな林」も刊行されました。これまでの会の活動の歩みを毎月発行している会報を通じて紹介しているもので、その内容の充実ぶりには、目を見張るものがあります。

また、全編を通じて、前向きな真摯な取組みが滲み出ている素晴らしいものです。会報等各山岳会でも大いに参考になる素晴らしい記念誌です。ぜひご一読をお勧めします。

なお、県山協活動でも、各種登山研修会での講師や国体山岳競技での中心的役割を果たして頂くなど大きな役割を担って頂いています。

### 翌檜山岳会は、創立50周年を迎える

翌檜山岳会(武田征夫代表)も、創立50周年を迎え、平成25年2月3日(日)式典、祝賀会が市内公民館で開催されました。会場には会員をはじめ日頃、なにかと負担をかけている奥様方も出席、35名ほどで家族的な雰囲気の中50年の活動の歴史を振り返りました。同時に会報「翌檜5号」も発刊され会員や関係機関に配布されました。

式典で武田代表は、「明日は檜のようなくましい山岳会になろうと皆で活動てきて半世紀、年輪の重みとともに、木に例えるならば立派な用材となる樹齢、仲間

との悲しい別れもあったが、今後も会員の融和のもと、会風を大切に活動していきましょう。」と挨拶し、まさに大木の檜を目指して、年輪を刻むことを誓いました。翌檜山岳会は、昭和37年に7人の会員で松尾翌檜山岳会として発足。その後、翌檜山岳会と改称。現在の会員は、八幡平市を中心に28名で、県内でも比較的若手会員の多い山岳会です。これまで、会単独の海外遠征登山を2回、冬の洞ヶ沢、イタザ沢の登攀、岩手山頂ビバーク、厳冬期の八幡平山スキー登山等の活動を活発に行ってきました。また、八幡平山岳遭難救助隊の中核隊員として多くの会員が活躍しているほか、創立以来一貫して、競技登山にも積極に取組み、最近では若手会員を中心にスポーツクライミング、トレーランニングにも力を入れています。同会は、もう立派な檜、これからも協会のリード役を期待します。

### 晴れの受賞おめでとう

11月3日今年の秋の叙勲が発表されました。当協会顧問で滝沢村山岳協会会長の角掛喜美夫氏が旭日双光章を受賞されました。角掛さんは、長年、滝沢村議会議員として地方自治の発展に貢献されるとともに、私たちの山の先輩として岩手山を中心の安全登山の啓蒙、環境省自然公園指導員として自然保護活動等に活躍されてきました。現在も協会主催のトレラン大会のコース整備や岩手山八合目避難小屋の管理等現役として大変ご尽力を頂いています。本当におめでとうございます。また、去る11月26日には、岩手県体育協会体育功労表彰が行われ、協会副会長の鈴木主計氏がめでたく受賞されました。鈴木副会長は、長年協会役員として安全登山の普及、競技力向上等に尽力されるとともに早池峰山岳会会員として登山を通じて社会体育の振興にも貢献されてきました。当日は、地域体育振興への功績で同じ早池峰山岳会の海老勝彦会長も受賞されています。おめでとうございます。

### 韓国の名峰智異山遠征記

県民とともに登る遠征登山の海外版が今年も、登山普及部の主管で韓国の第二の名峰智異山で行われ、加盟団体会員を含め17名が参加し10月31から11月4日5日間の日程で行われました。健脚ぞろいの遠征隊は、天候にも恵まれ全員登頂し大きな成果を収めて帰国しました。

韓国の名峰 智異山 登山報告  
ちりさん



登山普及部事業の韓国「智異山」登山は、10月31日～11月4日まで5日間の日程で実施しました。参加者は、17名（男性8名 女性9名）のほか、岩手県北観光の添乗員1名が同行しました。

智異山は、山系の総称で智異山というピークはありません。智異山山系全体が智異山国立公園に指定されており、韓国で最初に国立公園に指定された公園で、面積も韓国内で一番広く周囲320kmあります。今回目指したのは、最高峰の天王峰1915m（韓国名：ジョナンボン）というピークです。

初日（10月31日）は、成田空港から、釜山空港まで13時55分発エアブサン111便で出発。宿泊のホテルは、釜山の北西側に専用バスで約2時間半の「智異山温泉ホテル」。夜8時過ぎにホテルに到着しました。

二日目は登山行動日。4時起床、5時に専用バスで国立公園北側の白武洞登山口に向かって出発、約1時間で登山



口到着。6時30分登山開始。登山ガイドは、専用バスのガイドを含め4人同行しましたが、日本語を話せるのは、バスガイドのみ。

先頭のチーフガイドは海外登山の経験も豊富とのことで、歩くペースが速く付いていけないので、当隊のリーダー佐藤誠氏のペースで登りました。紅葉の樹林帯を登ること4時間で樹林帯を抜けチャントモク待避所（山小屋）到着。昼食後、さらに急登を1時間40分で最高峰の天王峰到着。天気が良く風も弱く、寒さは感じませんでした。



この時期としては珍しい穏やかな天気とのことでした。山頂からの下りは急斜面の連続でしたが、国立公園南側の中山里登山口に4時30分に無事下山することが出来

ました。この山は岩稜の山でしたが標識、登山道はよく整備されて歩きやすいコースでした。国立公園北側の白武洞登山口から南側中山里登山口まで約13kmの縦走、標高差1400mで登山行動時間は10時間でした。

韓国は、登山ブームで特に智異山国立公園を東西25kmを2泊3日かけて縦走するコースが人気のようです。ただ、待避所（山小屋）は、ネットによる完全予約制となっており、週末は予約が取りにくい状況となっているようです。

三日目は、智異山国立公園内の華嚴寺、双溪寺、花開市場、四日目は慶州の世界遺産仏国寺、石窟庵、釜山の海鮮市場等の観光を楽しみました。

## いよいよ本格的な冬山シーズン

### 安全登山に心がけましょう

気象変動の激しかった平成25年から26年へと移る中、本格的な冬山シーズンを迎えることになりました。

最近は、これまでの経験則やデーターの予測を超える気象条件が続いている。

冬山登山に際しては、特に次の点に留意して入山しましょう。

1入念な事前準備と装備の点検、気象条件の変化に注意しましょう。

2単独山行は避けましょう。

3入山届を必ず、最寄りの警察に出しましょう。

4携帯電話等通信手段を携行しましょう。

5万一に備えて山岳保険に加入しましょう。

### (公社)日本山岳協会山岳保険加入のおすすめ

山岳保険の加入は、登山者のマナーです。

まずは、山岳共済会(年会費1,000円)への加入をお奨めします。

そして、山岳遭難・捜索保険に加入に加入しましょう。

詳しくは、

協会事務局又は(公社)日本山岳協会ホームページで

## 岩手県山岳協会名誉会員・顧問懇談会開催

平成 25 年度協会名譽会員、顧問会議は、去る 12 月 14 日(土)、名譽会員、顧問及び会長ほか執行部の 23 名の出席のもとサンセール盛岡で開催。懇談会冒頭、高橋会長から日山協、東北ブロック及び県山協の現状と今後の活動の方向について次の要旨で説明。

### ◎ 岩手県山岳協会の現状と方向について

#### 1 公益社団法人日本山岳協会の動き

- ・4 月 1 日の公益社団法人移行後 8 か月経過、安全登山と山岳競技、環境文化の 3 つの目的を掲げ、理事 25 人の執行体制。構成団体 47 都道府県 + 全国高体連・選手登録制度の充実(26 年度の県民体育大会、県高校総体出場レベルから適用)、・山岳保険共済会への加入促進・スポーツクライミングのオリエンピック種目への移行の運動の継続等

#### 2 東北ブロックの動き

- ・日山協の各ブロック代表理事は、高橋協会会长(任期二年)・スポーツクライミング施設の整備の遅れと民間施設への依存(公的施設不足)・国体での東北の競技力低下(25 年度入賞県 岩手県成年女子、宮城県少年女子)等

#### 3 岩手県山岳協会の現状と方向について

- ①加盟団体組織数は、47 団体ここ数年横ばい・財政的には、一般会計での自主財源である会費収入の占める割合は 1 割強、各部事業収支は、独立採算制で実施、総じて收支均衡で運営
- ②岩手山 8 合目避難小屋管理は、公益的視点での管理に留意し、安全登山の啓蒙、事故防止、自然愛護活動の拠点として加盟団体の奉仕的協力のもと実施。
- ③各基金(毛布積立基金、一般積立基金、東北総体開催積立基金、太野隆夫基金)の平成 24 年度決算合計は、3,959,614 円。協会運営全般では安全登山の啓蒙、選手強化などで指導員会、山小屋会計及び国体募金の財政支援等を頂いている。今後国体、東北総体、山小屋備品等の更新など支出を想定

#### ◎協会事業活動は、大きく 3 つに分類

##### (1) 未来志向の協会運営

- ・岩手県を代表する山岳団体としてリーダーシップと社会的使命、・(公社)日本山岳協会の改革への対応、公益事業への取組み・選手登録制度への対応(一般、高校)・一般未組織登山者、スポーツクライミング爱好者への対応・加盟団体及び参与会、指導員会並びに関係市町村との連携強化・健全財政の確立・長年の実績と伝統に培われた堅実な協会運営の推進

##### (2) 安全登山の啓蒙普及と自然愛護

ジュニア登山教室の開催・県民向け国内、国外登山を通じての安全登山の指導・一般登山者への安全登山の啓蒙(岩手山 8 合目避難小屋の管理・岩登り、沢登り、初冬期講習会、冬山講習会等開催と登山技術の研修指導・アルパイン指導員の育成、指導員資格の取得奨励・アルパイン指導者認定検定員の養成・遭難事故防止啓発と救助技術の習得・日山協山岳保険への加入促進・地球温暖化に伴う外来植物駆除、自然愛護思想の啓蒙

##### (3) 山岳スポーツの振興普及

スポーツクライミング(ジュニア・高校・社会人)の普及・スポーツクライミング施設整備・スポーツクライミング指導員養成・スポーツクライミング審判員、競技会運営委員の養成と資格取得の奨励・スポーツクライミング選手強化・スポーツクライミング大会等の開催(太野隆夫杯岩手県ボルダリング選手権・岩手県クライミング選手権・岩手県ボルダリング選手権・岩手県クライミングビギナーズコンペ・リードトレーニングセッション・ボルダリングトレーニングセッション・夏休み親子クライミング・ボルダリング教室・スポーツクライミングジュニア教室等)・岩手県高校総体登山競技・高校総体新人戦(高体連)・岩手県高校生クライミング選手権大会(高体連)・鞍掛山トレラン大会 の開催、岩手山ボッカ大将の開催・平成 16 年希望郷岩手国体、平成 16 年ジャパンカップ、平成 15 年東北総体山岳競技開催

引き続き各部長から活動状況について説明を行い、懇談に入った。

##### ◎事務局

部長会 8 回、理事会 6 回の開催、山協ニュース 5 回発行、国体準備会議等への対応

##### ◎事業部

所管スポーツクライミング大会(5 回)、加盟団体交流会開催(8 団体 27 人)、鞍掛山トレラン大会(95 名出場、役員 13 団体 44 人の協力)

##### ◎指導部

指導員数 90 人、 冬山講習会(4)、残雪期(18)、沢登り(5)、岩登り(13)、初冬期(12)、指導員更新、審判員、講師派遣

##### ◎登山普及部

岩手山 8 合目避難小屋管理、岩手山ボッカ大将、安全登山啓蒙登山、ジュニア登山教室、韓国智異山登山

##### ◎選手強化部

国体選手強化指定 12名、国体強化方針 ①地元施設の有効活用、中央大会派遣	筋トレ等の導入、強化コーチ制の導入、中高の連携指導、地遊郭コーチ招聘による継続的指導
②国体推進部	審判員、運営員の養成、資格取得、リード壁改修工事の進捗

懇談では、各顧問から国体強化について選手の脚力、バランスの養成、体力面の強化に重点を置くべき、少年少女の重点強化の必要性、生活指導等についての意見が出されました。また、国体運営等役員養成について、もっと日山協に主体的対応を求めるべきこと。日山協理事でもある高橋会長には、理事会等を通じて地方の意見を積極的に反映するよう頑張って欲しい。全日本登山大会への対応について、地元になじむ大会として改善すべきなど貴重且つ建設的なご意見を頂きました。今後、協会運営等に生かしながら事業展開を図っていきたいと思います。

**出席者** 矢羽々昭夫、出堀宏明、中谷 充各名  
誉会員、矢羽々文一郎、村上 力、渡辺正蔵、国本旗男、佐藤時雄、川村芳征、波岡浩の各顧問、協会からは高橋会長、吉田、武田、西館各副会長、小山理事長、畠山副理事長、遠藤事務局長、植田登山普及部長、鎌田事業部長、佐藤指導部長、中村事務局次長

## 東北ブロック会議福島県猪苗代町で開催

平成 26 年度東北ブロック会議兼日本山岳協会競技委員会ブロック別研修会が去る 11 月 23 日(土)と 24 日(日)の 2 日間、福島県猪苗代町の磐梯青少年交流の家で開催され、日山協の八木原副会長をはじめ東北各県の代表者 39 名が出席。

本県からは高橋会長、佐藤指導部長、遠藤事務局長が出席。

- ・東北ブロック会議開催の在り方、特に日山協競技委員会研修との開催については、従来に戻して競技委員会研修と東北ブロック会議の同時開催とする。  
(平成 26 年度は、岩手県担当)
- ・平成 26 年度から全国高体連の日山協加盟、各岳連(協会)加盟等は従前どおり。
- ・平成 26 年度から各種大会(当面県民体以上)出場者の選手登録制度のスタート、高校生は、全国高体連、一般は、協会経由で日山協に申請登録制度スタート

- ・全日本登山体育大会に山形県、宮城県が開催意向、日山協で調整一本化他

同じ会場では、スポーツクライミング C 級審判員、競技運営委員認定研修も開催され、小山事務局長、菊池理事、鎌田部長、四戸理事、伊藤理事、島崎理事、高橋(亜)、和田強化委員が受講、受験しました。

## 大迫体育館を会場に

### 第11回クライミングビギナーズコンペ開催

平成 25 年度最後の協会事業となる第 11 回クライミングビギナーズコンペは、12 月 22 日花巻市大迫体育館常設登攀施設で開催されました。

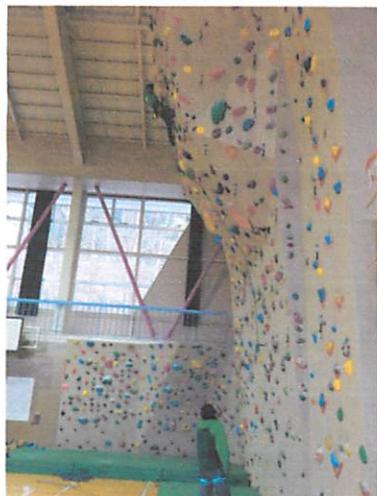
大会には、選手 41 名と役員 21 名が参加し、寒さを吹き飛ばす熱戦が展開されました。

セッター及び当日のデモンスト레이ターは、高橋亜也加さん、昆 修太君、触沢 強志君、山内 韶君の現役組が担当。

この大会は、スポーツクライミングの普及とジュニア層の選手発掘等を目的に毎年開催しているもので、今年は初めて大迫体育館での開催となりました。大迫は、昔から山岳競技が盛んで、最近では、国体選手として成年女子立花里美選手を輩出するなど、スポーツクライミング熱も盛んです。

会場となったクライミング壁は、地元山岳関係者の熱意に応えて花巻市が平成 24 年度に整備したもので、室内施設としては、県内有数の施設規模を誇る立派なものです。

当日は、地元大迫山岳会の浅沼利一郎のさんが選手の激励に来て頂きました。



競技結果は、次の通り

種別	第一位	第二位	第三位
ジュニア 男子	石嶋魁人 (北松園中)	浅石颯汰 (厨川中)	小松夕葵 (鵜飼小)
少年男子	小田島来賀 (岩手高)	木船拓海 (岩手高)	及川涼太 (黒工)
少年女子	田中美波 (盛岡農)	菊地杏梨 (盛岡南)	齋藤美優 (盛岡南)

## 第4回全国高等学校選抜

### クライミング選手権大会速報

今年で第4回となる全国高等学校選抜クライミング選手権大会は、去る12月21日と22日の2日間埼玉県加須市で開催され本県からは、県予選を勝ち抜いた4選手が出場、結果は次の通り

男子	所属	成績	女子	所属	成績
稻垣涼	岩手高校	58	山瀬奈々子	盛岡三高	26
藤戸大輔	黒工高校	81	中村朱	盛岡一高	42
高橋直也	黒工高校	82	小船瑠子	盛岡一高	56

## お知らせ！！

### 平成26年度県山岳協会定期総会は

### 2月8日開催予定

平成26年度岩手県山岳協会定期総会は、下記の日程で開催されます。

各加盟団体の代議員2名、名誉会員、顧問、理事の皆さん予定を開けておいて下さい。

日 時 平成26年2月8日(土)午後1時30分開会  
会 場 盛岡市 サンセール盛岡

その他 総会終了後、会費6,000円で懇親会を開催しますので併せて、ご出席をお願いします。



2016希望郷国体山岳競技  
情報③

### 東京スポーツ祭東京国体報告会開催

去る12月14日サンセール盛岡で、東京スポーツ祭第68回東京国体報告会が開催されました。会には、選手監督のほか、来賓の滝沢村長柳村典秀村長、八幡平市長代理の小野寺浩企画総務部長をはじめ名誉会員、顧問等40名の出席を頂きました。冒頭高橋会長が、国体は、ワールドカップ出場選手やクライミングジム専属クライマーが出席し競技レベルが年々上がっているなか上位入賞の成年女子の活躍は立派、本県は5年連続4種別フルエン

トリーという全国でも数少ないに県であることを評価する反面、全国レベルとの格差を乗り越え上位入賞に向けてさらに精進してほしいと挨拶。柳村村長も岩手の底力を見せてくれた選手の皆さんを称えるとともに、岩手山などの登山環境の整備やトレラン大会の充実について村としても積極的に対応して行きたいと力強い祝辞を頂きました。その後、懇談に入り各監督、選手からは大会出場の感想やこれから精進への誓いの言葉が述べられました。

席上、リード5位、ボルダリング6位入賞の畠山千怜選手と立花里美選手、畠山晃監督に高橋会長から感謝状と、金一封が送られました。なお、選手監督から、国体募金への協力等皆さんへの応援協力に対して感謝の言葉がありました。これからも応援よろしくお願いします。

### 審判員、運営委員視察で東京国体へ派遣

2年後の岩手国体山岳競技の準備のため、去る10月4日から6日にかけて東京都東久留米市スポーツセンターで開催された東京スポーツ祭東京国体へ、14名の視察員を派遣。

視察のメンバーは、車3台に分乗し東京に乗り込む。厳しい予算の中、宿は、会場から70キロばかり離れた奥多摩源流のキャンプ場に取る。風呂もない、ビバークに近い環境の中でも視察メンバーの士気は高く、3日間、運営状況を現場でつぶさに視察しました。今年は、審判員、特に運営委員は90名近い人数が必要となることから、認定講習会を重点的に開催するなど準備に入ります。また、審判員については、今年の長崎国体に、佐藤誠指導部長、小野寺訓理事を審判員として派遣など具体的な準備に入ります。

### 「山岳競技リード壁」県営運動公園でいよいよ着手

希望郷いわて国体山岳競技会場の一つであり、スポーツクライミングの普及と選手強化の中心施設となる「リード壁」の工事入札がこのほど執行され、盛岡市内の大手業者が受注。いよいよ工事に着手、今年3月の完成が予定されています。

場所は、現在のリード壁の川を隔てた向かい側の緑地で、スペースや規模も大きくなります。施設は、国体基準に合わせて高さ12m、長さ15mを基準に壁は可変式で、上部は90度まで前傾となるほか、下部も可動する新システムで、4m幅の同じ壁が二面できます。

今後、ジャパンカップやワールドカップの開催も視野に入れた施設となります。なお、平成 16 年開催の希望郷岩手国体山岳競技の会場レイアウトが、ほぼ固まりました。

リード競技は、県営総合運動公園サッカー場西側の屋外で現在工事が進められている場所となります。ボルダリング競技は、総合運動公園南駐車場の北側スペースを利用して仮設テント、プレハブ施設を設置しての開催となります。なお、現在のボルダリング施設は、選手控え、ウォーミングアップ施設等として予定されています。



### スポーツクライミング C 級審判員 及び運営員研修に 7 名挑戦

スポーツクライミングの普及とともに各種大会も盛んに開催されるようになりました。また、岩手国体を控え、これら大会の審判員や運営委員の養成も急務になっていました。このため、昨年 11 月に福島県猪苗代町で開催されたスポーツクライミング C 級審判員資格取得のため 7 名が研修を受けました。また、運営委員についても資格取得が必須となっていることから 4 名が研修を受けました。

協会では、国体では運営員は 90 名近い資格者必要なことから、今年と来年を重点的な養成機関として定め、日山協から講師を招くなどして、体制整備に取り組みます。加盟団体の皆さんのご協力をお願いします。

### 経過報告

- 11/23(土)-24(日) 東北ブロック会議
- 11/23(土)-24(日) 日山協競技運営及び C 級審判認定研修会
- 11/25(月) 平成 25 年度岩手県体育協会表彰式
- 12/4(水)-6(金) 高校冬山登山講習会及び冬山登山計画書検討会
- 12/7(土)-8(日) 初冬期講習・研修会

12/14(土)	第 6 回部長会
12/14(土)	名誉会員・顧問懇談会
12/14(土)	東京国体報告会
12/22(日)-23(月)	全国高等学校選抜クライミング大会
12/22(日)	第 11 回クライミングビギナーズコンペ

### 今後の予定

- 1/10(金) 第 1 回常任理事会
- 1/15(水) 会計監査
- 1/22(水) 評議員会
- 1/25(土)-26(日) 指導員インドア研修会
- 2/8(土) 定期総会
- 2/15(土)-16(日) 冬山講習・研修会

